

平成22年度 真名川ダム・九頭竜ダム水源地域ビジョン推進委員会 議事概要

○日時：平成23年2月21日（月）14:00～16:00

○場所：大野市役所3階 大会議室

○議事内容

1. 平成22年度の各機関の取り組み状況
2. 平成23年度の活動予定
について事務局および各機関から説明。

主な質疑応答、意見の内容は、以下のとおりである。

1. 森と湖に親しむ旬間行事について

- ・九頭竜ダムは岐阜や名古屋からこられる方の通り道となっているという事で、場所としてのポテンシャルはあると思われ、アンケート結果でも、「通りがかりで寄った」という回答が多かった。今年は、人数が去年よりかなり増えており、これは大野市内の築城430年祭が行われているという事で市内の方に向かわれる方が多く、ダムに立ち寄られる方が多かったからだと思われる。今後どう続けていけるかが課題。

2. 「水源地の森づくり」植樹会について

- ・県内各地で年間3,000本ぐらいの植樹を行っているが、植える場所が林道やダム建設時の土捨て場といった場所で、なかなか植えたものが根につきにくいといった事が悩みとなっている。草の種を播いて1,2年草を育てて、土作りをしてから植えるといった方法を検討しており、今年は南越前町のダムサイトで試みを予定している。今後も残土の場所を中心に植樹を進めていきたいと考えている。

3. NPO法人九頭竜自然楽校について

- ・人を集めるためにどのような工夫をなされているか？
→基本的に関係団体を通じて参加を呼びかけている。

4. 水辺の楽校ビオフレンズ

- ・大阪の小学校から来られている事が書かれているが、どうゆう経過で遠くから来られているのか？
→オアシス協会さんが大阪の小学生を受け入れるカントリースクールを行っており、その一環で昆虫観察を行ったり、水遊びを行ったりしたという事。受入れは2年目となる。
- ・スタッフは何人ほどで、又課題などがあったら教えて欲しい。
→スタッフは13名。みなさん仕事をもっておられるので、常時出られる方が限られてしまっているのが悩み。6年間活動しているが、年ごとに参加人数が減ってきているのに加え、顔ぶれも変わらず若返りを図る必要があると考えている。3年ほど前は、水辺の楽校へ呼び寄せる活動を行っていたが、逆に出張して人材を発掘しようという事で、人

材出張イベントを手がけている。

5. 真名川ダムフラッシュ放流について

- ・真名川ダムができて以降あまり水が流れないという事で、河川敷が雑木林のようになり、有害鳥獣もかなり多くなって、雑木林が有害鳥獣の棲家になっている。市や県と協力しながら雑木林の伐採を少しずつ呼びかけているが、フラッシュの回数を増やすとか、もう少し流量を 1,000 t ほど流すというのは不可能なのかお聞きしたい。

→樹林化しているという事について、問題視している。

これまで 70 t しか流していなかったもので、水がのる範囲は少なかったが、今年はじめて 200 t に増やす。ただ、水を流すだけでは、なかなか自然は戻ってこないもので、少し手を入れる事で自然に砂礫の川原が残るような形にならないかという事で、実験を行っている。今年は、水際のところを少しほり返して、ツルヨシの根を切ったり、その時に出てきた大きな石を川の中にほうりこむ事で、自然にその周りが掘れたり、土砂が流れたりして、自然な川原の生態系ができるような事を考えている。市と県とで樹木の伐採がされているが、伐採したところを少しきり下げるような事をして 200 t 流した時に、そこに水がのれば、その後すぐ草が生えて、又木が生えるといった事が、少し抑えられれば、そのうちに自然の出水が何回かあると、ずっと礫の川原が残るのではないかなと思っており、そういったところを目指して行きたい。今年と来年含めて実験を行った上で、これからどのくらい流していったらいいか考えていきたいと思う。

- ・時期的に台風前の 9 月頃にもう 1 回流すというような事はないのか？

→実験的にやっているのは、融雪の時。夏場は釣り人など河川を利用される方が多く、人工的に流して事故があると大変である。逆に 4 月の融雪時は川に人が少ない事、また漁協さんの方で稚魚を放流される前に行わないと問題があるという事でこの時期を設定した。

- ・8 月～9 月頃に 1 回行ってもらえないかと、地元では願っているのだが、どうか？

→自然の出水がある場合はよいが、人工的に流す場合は、事故対策や河川利用される方が多いなどで難しいと思われる。

→今年は、去年の 3 倍分流するという事なので様子をみてみたいと思う。

- ・人工洪水を起こすので、安全対策が大変重要で、単に大野だけの安全だけでなく下流域の安全もあわせて考える必要があるもので、人工洪水をご希望のように行うという事にはならないのではないかなと思う。主旨は、自然再生する為にどうしたらいいか、その為のテストなので、将来的には、この方法が一番いいという方法を探し出して、それが定着するようになるのではないかなと思っている。

- ・川のよどみのところに土砂が溜まってきているのが目立つが、フラッシュ放流によって、同時にダムに溜まっている土砂を引っ張り出してしまうという事はないだろうか？

→ダムで水を貯めるので、上流に土砂が溜まり流量が少なくなるので、下流の土砂の動きがなくなっており、それをできるだけ元に戻そうという事で、フラッシュ放流をやっている。これまでは 40 t・50 t を流していたので、少し動いた土砂がもう少し下流にいつて溜まっているといった事はあったかもしれない。今度の 4 月では、もっと大きな量で

流す事で、大きな石も動き、細かい土砂だけで溜まるような事がないようにしようと思っている。はじめて大きな量で行うので、その後、下流の川の様子がどうなったか、5月頃に調査をして、また次の時に、もっと 300 t にしたらどうなるかとか、その辺も含めて検討していきたいと考えている。

6. 九頭竜ダム湖のコクチバスについて

- ・大量のコクチバスの生育が予測されてきているという状況の中で、県の水産課、内水面センターと協力して、一大駆除の行動を行うと同時に独自でカモアミ五個、サシアミ三本を使って、ダムに入れて、それを引き上げて捕獲されたバスを駆除するという行動を2回に渡って実施した。合計捕獲したバスは14匹にのぼり、最長47cmで他30cm台。九頭竜ダムの上流のほぼ最上流近くは、ずっと浅瀬が、左岸右岸ともつづいており、そこに大量の産卵をするという事が確認されている。来年度以降も駆除の行動を独自で行うと同時に県の協力、国交省さんの協力も得たいと思う。九頭竜川にバスが下流という事は発電所があるので、ないかと思うが、危機感をもって取り組んでいる。また、来年度は、ショッカー船を使って、バスを広範囲にわたって駆除していくという計画を6月に入ってから行う事で県と話を進めている。かなり大量のバスが捕獲される事を期待している。
- ・今のところ、大野市漁協管内の水中には、バスはいないが、これが大野管内に入ってくるとなると大変な事になると思う。三方五湖、北潟湖など福井県全体に生息しており、それらを駆除する為に、その対策に苦慮しているというのが、現状である。みなさんのご協力を賜りたい。

7. ダム湖の自然環境保全の取り組みについて

- ・ダムサイトの樹木が大きくなったり、枯れ木があったりして、景観がそこなわれてきているが、整備ができないものか？

→ダムの管理者で木を切るという事は、予算の都合もあって、なかなかむずかしい。流木を処分するだけでも結構なお金がかかっていて、それをどう処分費を安くするかという事で、流木配布をしたり、チップにしたりしているところなので、切るという事はなかなか難しい。みんなと一緒に切るといったような事ができるといいと思う。植樹はドラゴンリバーさんと一緒に行ったりしているが、植えるのと併せて切るといった事も考えられるのではないかと思う。ただ、切った後の処分が大変なので、そこをどうするかという事を考えないといけない。何かできる手立てがないかご相談させて頂いて、一緒にやれば良いと思っている。全体を、一気に綺麗にするのは難しいと思うが、みんなですこしずつできたらいいと思っている。

- ・河川にはびこっている樹木や草などの除去の取組みをやって頂けないか？
- ・山原ダムは、土砂を貯めるダムになっている。土砂を撤去していく事を大事に考えなかったら、下流に住んでいる人たちへのきれいな水の提供など怠っていくのではないかと心配である。

→山原ダムについては、電源開発さんが担当だが、ダムの水を貯めるという事ではなくて、

発電に水を持っていく為に水面高さを確保するという事になっているので、上流からきた土砂はどうしても溜まってしまう。水質という面ではそれほど問題にならないと思われる。ただ、本当の自然を模倣するという事であれば、ダムを自然に土砂が通過していくという事が望ましいというのがあって、全国的には、ところどころで、排砂の施設をつけて、洪水の時に自然に下流に土砂が流れていくような事を行おうとしているところもある。まだ、全部のダムという事ではなく、実験的に始まったという事で、今後そういった取組みが少しずつ広がっていくものと思われる。

- ・最近、水上スキーが多くなってきている。つり客などから直接苦情がきているわけではないが、土・日になるとかなりの水上スキーヤーがきて、中には、かなり乱暴な運転でダムを走ったりする事がある。取り締まるというのは、難しいと聞いているが、彼らと共生していくためのいい方法があったら教えて欲しい。

→例えば、淀川や京都府の由良川など都会の方の川では、水上バイクは大変多くて、周りの住民の方とトラブルが多く、そうゆうところでは、強制的に取り締まるというのは、難しいらしいが、警察、自治会、市などと一緒に協賛会を作り、水上バイクをやっている愛好者の方も入って頂いて、ルールを決めるというような取組みをやられているところもある。九頭竜ダムで同じ事を行うとしても、個人的に来られて遊んでいるという状況なので、水上バイクをやられる方の誰と交渉したらよいのかわからないと思われる。どこかの団体がしっかりやるのであれば、そこと一緒にルールを決めていくのかなと思う。問題意識を持たれているというのは理解しているので、今後どうしても問題がでてくるという事であれば、何か考えていかないといけないと思っている。

8. 平成 23 年度の活動予定について

- ・基本的には、今年度行った事を引き続き発展させていくという事だが、これから継続的に人に来て頂くためには、大野の町の魅力をアピールしていく事かなと思っている。大野は、いいところだと思っているが、いいところに来てもらうためには、地元の人が自分のところは大事だという事、自分の町が好きだという事で、楽しんでやっていると、人が継続して来ないのでは思う。大野市さんのほうで、湧水文化再生という事で、取組みをされているが、その成果を通じて一緒に連携していけたらと思っている。具体的に行うのはこの 15 個だが、それと連携しながら大野市の文化を外にアピールする事を一緒にやっていけたらと思っている。

9. まとめ

- ・17 項目にわたり取組み状況を報告して頂いた。まず、森と湖に親しむ旬間、そして本年度は、大野城築城 430 年祭という事もあり、それと連携した活動もさかんに行われたという報告を頂いた。また、各団体には自然環境、安全教育といったところにも積極的に取り組んで頂いた。幼児、児童、子どもたちに自然環境に対する意識を持ってもらうと同時に安全を確保していくといった事は、非常に大事な事ではないかと思っている。また、一方では、コクチバスの問題、水上バイクの問題に対しても、これからしっかり考えていかなければならないと思っている。来年度の活動予定としては、基本的には、今

年度を引き継ぐ形だが、さらに活発に行われ、又、各団体機関の連携が行われる事を願っている。

10. 最後に

- ・430 年祭について、みなさんにお世話になり、大変感謝している。大野市が進める湧水再生が今後方向性が出てきたら、これをビジョン推進委員会で事業でとして取り扱う旨のアドバイス頂き感謝している。

ダムや河川流域で、環境学習や公園など、観光資源としての利用が進んできている事は大変結構な事である。一方、近畿の河川の大会等では、全体的に年間雨量が減ってきており、それが、中東の国と同じくらいの雨量しかふらないという事を聞いている。しかも、降る時は、局地的かつゲリラ的に降るというような事があり、雨の降り様の振れ幅が大きくなってきていて大変心配している。ダム上流の水源を今一度チェックし、針葉樹だけが間伐の対象でなく、落葉樹の間伐といった事もビジョン推進委員会の方で問題意識として持って頂き、水を安定的にダムを通して下流域に流せるように、また安定した水の確保ができるように、これから一つの課題として扱って頂けたらと考えている。

以上